

5. 各種プロジェクト

1. 学生宿舎運営支援プロジェクト

小平国際学生宿舎及び国立国際交流会館では、多様な寮生をサポートするために多くの学生アシスタントが寮運営に携わっている。小平国際学生宿舎には執行部チームであるレジデント・アシスタント (RA) 35名と共用ユニットの居住者間交流の橋渡しを担うコミュニティ・アシスタント (CA) 19名、また国立国際交流会館の RA5名が常駐している。彼らを現場指導するスーパーバイザーとして、留学生・海外留学相談室部門の教職員が各宿舎での現場指導にあっている。

1-1 小平国際学生宿舎寮組織 (ISDAK) の運営支援

2014年度のISDAKの執行部チームは、本学25名のRAに加え、東京学芸大学4名、東京農工大学3名、電気通信大学3名の計35名から構成された。各RAは基本業務として「1. フロアの寮生サポート」、「2. 班活動」、「3. ISDAK イベント」の領域をそれぞれ担っており、宿舎アドバイザーはRAによる寮運営における指導・助言を行う。

「1. フロアの寮生サポート」は、いわばRA活動の基幹となる業務であり、RAはそれぞれ自分の担当フロアを持ち、担当する寮生にきめ細かいサポートを提供している。2014年度の小平国際学生宿舎におけるISDAKの管轄エリアは、【共用タイプ (6室) × 35フラット】と【個室タイプ (8~22室) × 47フロア】の合計82フロア (502室) であり、これらを35名のRAで担当した。

次に「2. 班活動」であるが、これはISDAKの組織運営に関する業務で、RAはそれぞれの資質及び得意分野に基づき、3月のRA業務引き継ぎ合宿の中でどの班に所属するかを決定する。班活動はその活動期間から短期系班と通年系班の2つに分類され、RAはそれぞれ短期系1つ、通年系1つの計2つの班に所属することになる。これまでは班業務を含む全てのRA活動の意思決定がRA会議で行われていたため、毎月のRA会議の審議事項が膨大な数にのぼり、過度な時間拘束を招いていた。しかし2012年度から業務整理を行い、班活動に関する事柄については班内及び関連班同士で確認・決定し、RA会議では班の活動報告を行うことになった。また、各班には必ず前年度に業務経験のあるRAをリーダーとして置き、新任RAへの確実な引き継ぎを可能にした。本体制は2014年で3年目を迎え、班の役割がこれまで以上に明確化し活動の質が高まり、班ごとの活動ノウハウを蓄積することが容易になるなど、成果が表れている。

「3. ISDAK イベント」(原則毎月開催)においては、各RAが必ず毎月国際交流を促進するイベントを担当し、地域及び外部団体との協賛や寮生発案のイベント企画選定・実施補助を行う。ISDAK イベントのうち、もちつき大会 (1月)、Tokyo Night Walk (4月)、

5. 各種プロジェクト

小平商店街ツアー（5月）の恒例行事のほか、芋ほり体験や江戸たてもの園見学など新たなイベントも行われた。2014年度のRA活動は表1の通りである。

表1 2014年度のRA活動業務

RAの業務	業務名	主な活動内容	
①フロア活動	担当フロアにおける寮生サポート	担当するフロアの寮生サポート 連絡伝達・フロア予算とりまとめ	
②短期系班活動	春ウェルカムパーティ	入寮者歓迎イベント企画・実施	
	春ガイダンス	新入寮者向けガイダンス企画・実施	
	春受け入れ	新入寮者受入業務	
	夏フェアウェルパーティ	退寮者送り出しイベント企画・実施	
	秋ウェルカムパーティ	入寮者歓迎イベント企画・実施	
	秋ガイダンス	入寮者向けガイダンス企画・実施	
	秋受け入れ	新入寮者受入業務	
	冬フェアウェルパーティ	退寮者送り出しイベント企画・実施	
③通年系班活動	D棟サポート	夫婦家族者サポート	
	会計班	予算案・決算書作成、会計報告とりまとめ	
	FL班	FL制度運営・会議運営	
	CA班	CAマネジメント、連絡調整、会議とりまとめ	
	広報（HP&報告書）	HP管理・問合せ対応、RA活動報告書調整	
	面接研修班	RACA面接官の調整、引き継ぎ合宿とりまとめ	
	Music Party	毎月の音楽イベントの企画・実施	
	渉外・備品	外部との連絡窓口及びISDAK備品の管理	
④月次活動	4月	Tokyo Night Walk	地域及び外部団体との協賛イベント及び寮生発案イベントの企画選定・実施補助
	5月	小平商店街ツアー	
	6月	お茶会	
	7月	Movie Night	
	10月	防災訓練 小平食べ飲み歩きツアー	
	11月	芋ほり体験	
	12月	江戸たてもの園見学	
	1月	KIFA×ISDAK餅つき大会	
その他	2月	RA/CA感謝状授与式	ISDAK日本人・留学生混合チームで参加

1-2 国立国際交流会館の寮運営支援

国立国際交流会館では、5名の学生がフロア・リーダーとして居住し、留学生の異文化環境での生活のためのサポートまた会館居住者間の交流促進に努めている。具体的には、指導主事（留学生相談室教員1名）と会館職員2名の指導と協力のもと、フロア・リーダーは各フロアを担当し、日常的に会館に居住する留学生の生活サポートを行い、月例のフロア・ミーティングでは話し合いまた交流の場を設けると共に、必要な情報の提供を行って

いる。また年に 2 回の新入居者ガイダンスと 4~5 つの交流イベントを企画・実施している。2014 年度に実施した主なイベントは表 2 の通りである。

表 2 2014 年度の実施イベント一覧

月	イベント
4 月	新入居者ガイダンス&ウェルカムパーティー
6 月	防災センター見学&バーベキュー
7 月	流しそうめんパーティー
9 月	新入居者ガイダンス&ウェルカムパーティー
10 月	防災センター見学&バーベキュー
12 月	クリスマスパーティー
1 月	餅つき大会 (国立市民ボランティアとの共催)

2014 年度は、フロア・リーダーの協力・連携体制を強化するため、これまでの 4 名体制から 5 名体制に増強した。フロアを担当しない 1 名がフロア・リーダーの全体業務を統括し、各フロア・リーダーが業務遂行が困難な際に、サポートできる体制とした。また、国際交流会館ではフロア・リーダーが少人数の上、1 年で半数が入れ替わる傾向にあるため、居住者に継続的に質を保った支援が提供できる仕組みの構築が課題となっている。昨年度は「RA Handbook」を作成し、フロア・リーダーの役割と任務を明確にした。今年度は、新入フロア・リーダーへの半日トレーニングを導入した。このトレーニングでは、「RA Handbook」の重要な点を解説するほか、RA が直面するケースの考察、またイベントの企画書作成などを実施した。さらに、スタッフ・ミーティングの議事録、イベント企画書・報告書等の書類を電子化し、オンライン上で共有するシステムに移行した。これにより書類の管理と共有がより効率的なものとなった。

次に居住者の生活支援と交流イベントの質を向上するため、交流イベントの内容改善と新たな取組みを導入した。まず、交流イベントについては、全居住者を対象とした大きなイベントの数を減らし、一つのイベントの質を向上することに努め、その一方であまり手のかからない月例映画鑑賞会を導入し、気軽に居住者が集まることのできる機会を増やした。また、参加率の低い家族棟居住者のイベント参加を促進するため、フロア・リーダーと会館職員が協力し、積極的な声かけを行い、参加者数が増加した。また、2014 年 12 月から会館事務室前に意見箱を設置し、フロア・ミーティングとは別に居住者が無記名で自由に意見を投書できる仕組みを導入した。

最後に国際交流会館では留学生が地域社会と交流し、日本での社会生活の充実を図ることの重要性を認識し、国立市民また国立市の国際交流団体との協力・連携に努めている。1 階にある CC ホールを国立市民と共同による各種イベントのために開放するほか、2014 年度は国際交流団体と餅つき大会、留学生家族と地域住民の家族が交流するグローバル・ファミリーなどの共催イベントを実施した。

5. 各種プロジェクト

1-3 学生宿舎スタッフ (RA・CA) の採用活動

組織再編成に伴い多様な寮生のニーズに対応するため、小平国際学生宿舎の執行部チームであるレジデント・アシスタント (RA) と、共用ユニットの居住者間交流の橋渡しを担うコミュニティ・アシスタント (CA) の大幅な増員を 2012 年～2014 年にかけて行った。このため RA・CA の採用に一層の工夫が必要となった。

新規 RA・CA の選考過程では教職員及び RA 面接班が年度ごとの採用計画に基づき、①書類選考、②面接 (2 回)、③グループ・アクティビティを通して、個人の能力に加え集団で活動する能力に長けているかを慎重に確認する。同様に、継続 RA・CA (一年毎の更新制) に対して、任期中の実績と教職員面談により任期更新の有無を判断する。2014 年度は新規・継続者を含め RA 23 名 (国際交流会館 RA 4 名を含む) ・CA 19 名が活動した。このほか、小平国際学生宿舎では、東京学芸大学 RA4 名、電気通信大学 RA3 名、東京農工大学 RA2 名が ISDAK 執行部チームとして共に活動した。

RA・CA 採用は年二回、春と秋に実施しているが、RA・CA の需要と供給のミスマッチが課題となっている。毎年、既存の RA・CA の大学卒業により、春の採用時には 20 名以上の新学生スタッフを採用する必要がある。前年度 12 月ごろから説明会開催、寮内リクルーティング・寮のグループメールを活用した募集、採用面接の出願課題作成、選考方法など、募集から採用に至るまで様々な施策を RA と大学が協同で実施している。このため、質の高い人材を確保することが出来ているが、新年度の需要過多は常に問題となる。

これとは逆に、秋の採用時には派遣留学制度帰国者からの応募が多数ある一方で、採用枠数は任期途中に抜けた RA・CA の穴埋め程度しかないため供給過多となる。この春と秋の RA・CA の需要と供給のミスマッチの課題を解決するため、新たな取り組みを実施した。秋の募集の際に、合格水準に達した学生に対して、秋学期からの採用、または翌年の春学期からの採用の内定を通知し、春学期の人員の早期確保に努めた。この結果、秋の採用時に、2015 年度春学期から業務開始の RA・CA5 名にオファーを出し、うち 4 名の事前確保に成功した。今後もこの方法により、質の高い学生への早期アプローチを継続したい。

1-4 国際学生宿舎の各種ガバナンス

小平国際学生宿舎では、4 大学 (一橋大学、東京学芸大学、東京農工大学、電気通信大学) の関連部署、国際学生宿舎専門委員会構成員、宿舎アドバイザー、管理会社、各学生寮委員会など、複数の寮関連組織が入退寮管理業務及び寮生指導・教育・サポートを行うという複雑な構造になっている。そこで、組織を超えての情報交換や打合せを頻繁に行う必要がある。宿舎運営に関する主な事柄は表 3 の各会議において審議・報告された。

表3 宿舎運営会議

主 催	活動名	開 催	参加者
国際課	4大学合同打ち合せ	年2回	4大学教職員、RA
学生支援課	国際学生宿舎専門委員会	年数回	専門委員会委員、学生寮委員会代表
管理事務所	プラザ会議 (寮)	年数回	学生寮委員会、学生支援課、国際課、宿舎アドバイザー
	プラザ会議 (課外活動)	毎年	各課外活動団体、学生支援課、宿舎アドバイザー
レジデント・アシスタント	レジデント・アシスタント会議	毎月	レジデント・アシスタント宿舎アドバイザー
	フロアリーダー会議	毎月	フロアリーダー、レジデント・アシスタント
コミュニティ・アシスタント	コミュニティ・アシスタント会議	毎月	コミュニティ・アシスタント宿舎アドバイザー

(阿部 仁、渡部 由紀、五嶋 春奈)